



11月8日・9日の2日間、若杉町公民館でミニ文化祭が行われました。

この催しは、町民同士が趣味を通して親睦を深めようと2年に一度開かれています。

今回も約30人が手作りの将棋の駒や手芸作品、陶芸、絵画などの作品や自慢の品など約150点を持ち寄りました。

どれも力作ばかりで、会場を訪れた町民のみなさんは、並べられた作品の一つひとつに感心しながら見入っていました。

作る人も見る人も楽しんでいます



10月26日、船津町内会では、町民レクリエーション大会を利用して防災意識の高揚を図ろうと煙体験を行いました。

町民のみなさんは、消防署職員の指導を受けて煙体験ハウスの中を通りましたが、想像以上に充満していた煙に、タオルなどで口元を覆いながら驚いた様子で出てきました。

町内会長の坂倉さんは、「住宅火災では、有害な煙が原因で命を落とすことが多いので、煙の恐ろしさを実感することで、地震や火事に備えて防災意識を高めるきっかけにしてもらえたらと思っています」と話してくれました。

うわあ、すごい煙！



堅神神社の例大祭が11月15日・16日に行われ、町民のみなさんが餅つきや福引、甘酒の振る舞いなどを楽しみました。

16日には、同町内会が、(財)自治総合センターから平成20年度の宝くじ助成(コミュニティ助成事業)を受けて、新しくそろえたこどもみこしや胴長太鼓などが披露されました。

おはらいを受けた後、早速、そろいのはっぴを着たこどもたちが「わっしょい、わっしょい！」と元気に掛け声をかけながら、真新しいみこしを担いでいました。

新しいみこしだわっしょい！



長岡総合型スポーツ文化クラブでは、スポーツを通じた、新しい地域のコミュニティの創造を目指して活動しており、その一環として、毎年全会員で熊野古道ウォーキングを行っています。

今回は、10月26日に6歳から60歳まで総勢58人が参加して、西国一の難所と言われている八鬼山峠に挑戦しました。

会員のみなさんは、大汗をかきながらお年寄りはお年寄りに後れまいと、こどもはお年寄りに負けまいとお互いに励まし合って峠を登り、途中でくじけそうだったかたも、最後の三木里海岸に到着したときは、充実感に溢れていました。

励まし合っ正しい汗流しました